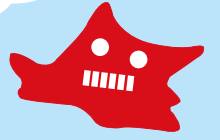


このページは、小・中学生に向けて
梅光学院大学子ども学部子ども未来
学科(地域共生ゼミ)の学生が作って
います。



※イラスト 松山北斗さん

しものせき キッズページ



美術館未公認ゆるキャラ

Shimobin(しもびん)

ShiMoBiに行ってみよう!!

ShiMoBi... 下関市立美術館



4月号の編集記者(左から)村上涼さん、
平山智絵さん、中野優さん

洋画にせまる (日本近代洋画篇)

前号では西洋絵画を紹介したね。今回は、19世紀後半〜20世紀初めの西洋絵画に影響を受けた日本の近代洋画を紹介するよ。特に大正時代の日本の画家たちは、どのような洋画を描いたんだろう。



△『現代の洋画』第2号
(1912年5月発行)

当時は、美術雑誌を通じて西洋美術が紹介されました。

作品を3点紹介します!

① 山脇信徳《雨の夕》 (1908年、高知市蔵)

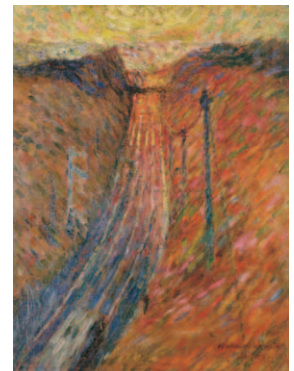


☆ここはどんな場所?
遠くにはニコライ聖堂、手前に伸びる道には電信柱、電車傘をさして歩く人々が描かれているよ。場所は東京。今から約100年前の、近代化していく都市風景だよ。

☆日本のモノ

山脇信徳(1886年〜1952年)は日本のモノとも呼ばれるんだよ。印象派のモネ、ラッソの画家のように、筆跡を残しながら、目の前の光景の雰囲気を描きとったからだよ。山脇は、雨が降る夕暮れ時に感じた情緒を表現したことに注目してほしかったよ。

② 川上涼花《鉄路》 (1912年、東京国立近代美術館蔵)



☆筆遣いや色に注目してみよう!

筆遣いがとても荒く、黄色やオレンジ、青、緑の色が鮮やかだね。ひまわりを描いたことで有名なオランダの画家ファン・ゴッホからの影響を表しているよ。

☆何を描いているのかな?

画面左下から上の方へ伸びているのが、鉄路。左下に描かれた色が濃く形がはっきりしない塊は列車なんだよ。今まさに走っていく一瞬を捉えているよ。

③ 岸田劉生《初夏の小路》 (1917年、下関市立美術館蔵)



☆季節は初夏。どんな風景?

木々が緑に生い茂り、土の道にはその陰が落ちてくるよ。これは、神奈川県鶴沼の風景を描いているんだ。岸田劉生(1891年〜1929年)は、身近な風景や物を観察して、その実在感(ものが実際にあることを強く感じることを表現しよう)としているんだよ。鶴沼は、1917年から数年間、岸田が療養のために暮らした場所なんだ。

ShiMoBi(市立美術館)では、4月23日(日)まで所蔵作品展「特集:端・橋・はし—Edge, Bridge, Hashi」を開催しています。時代の先端で活躍した作家の作品や、橋を題材にした作品を展示しています。

絵画や彫刻作品の多彩な表現・魅力に出会うことができます。ぜひ遊びに来てね!



市立美術館
(☎245-4131)

寺崎広業
《月下秋深図》